

第1回

■ふりかえりプロジェクト会議



ー生田緑地マネジメント会議をふりかえるー

1) 開催日時

日時：2021年8月29日（日）10：00～12：00

場所：生田緑地整備事務所2階 登録17名 参加16名

リーダー：倉本宣

事務局：生田緑地共同事業体・生田緑地整備事務所

2) PDCA サイクルという言葉が聞かれたことがあるでしょう。

自然会議では、生田緑地の自然に対して「とりかえしのつく範囲で、やって、みて、考える」という姿勢で臨んでいます。

マネジメント会議全体では、「とりかえしのつく範囲」を自ら選ぶことなく、「やって」きたことがたくさんあります。このプロジェクトでは、「みて、考える」のうちで、特に「みて」に重点をおくことで、これまでの活動をふりかえってみます。

3) 目的

プロジェクトの進め方を考えるために、このプロジェクトについての考え方やマネジメント会議についての思いを参加者に示していただき、共有する。

4) 内容

＜ルールが目立つのは参加意欲をそぐので、短くする＞

ルール：メンバーは、組織を代表するのではなく、個人として参加する。

5) 第2回に向けて

現在、出された意見を整理しています。

追加があれば、早めにお送りください。

いつでも新たに参加できます。
前回の議事録を見ていただくこともできます。
事務局の生田緑地共同事業体にご連絡ください。

■会議での主な意見

■マネジメント会議に参加して良かったこと

積極的に会議に参加して、サポーターになりたい。

生田緑地の植生管理について、理解を深めることができた。

管理運営協議会、植生管理協議会があり、それらの仕切り直し、生田緑地マネジメント会議に発展。

生田緑地マネジメント会議が、生田緑地の活動などを一つにまとめ、生田緑地そのものがどのようなところかが理解できるようになった。

自分の活動以外の情報が得られた。また、活動している方々と知り合えた。

■課題・反省点

活動していない団体の整理が必要

会議のルールなどのわかりやすい説明が必要

会員の相互のかかわりが薄い。

入会時やプロジェクト会議のやり方など改善すべき事項がある。

人が集まって楽しむ部分と自然環境を保全していく。正反対のものを同時に関するのは難しい。

各団体がきちんと自由に活動しているが、全体として統一されている。生田緑地のあるべき姿・方向性が共有されていること。それが一番重要。マネジメント会議がやることを絞る。

アクティビティに対する資金的なサポート。企業参画。

ひとつの形ができると柔軟性にかける。ゆるやかに話し合いの結論ができあがっていけばいいと思う。

■新しいことを取り入れる

SDGs、グリーンインフラなど新しいものを取り入れて考えよう

駅前の土地区画整理事業や多摩区ソーシャルデザインセンターなど地域が新しく変化している

誰がではなく、みんなが力を合わせて、話し合なかで自然に最善の答えを見つけて、進めていく（ティール型社会：長を置かない自然統治）

イメージをきちんと考え、みんなで共有すれば、かなりの部分は解決できる

■これからやっていくこと・考えること

テーマコミュニティと地縁が重要。

色々な顔がある。各施設。各団体。町会などなど。地形の特色。そのときそのときで、関心事、大事な事を思う人が声を掛け合い、みんながフォローしながら良い形を作っていく。その母体がマネジメント会議。

協働のプラットフォームについて、意見交換の場が必要だった。また、都市公園としての運営がどうあるべきか。行政が担う部分と市民が担う部分と。

経過途中のプロジェクト会議があるので、最後までしっかりやり遂げよう。

現役世代の人が入ってきやすい仕組みはどんな形か？

生田緑地全体に目を向けてくれる人が増えて欲しい

生田緑地の取組を含め、若い世代に伝えていくことを一生懸命やる。

決まったことから提言する（提言書にまとめる）